



勤務先：特別養護老人ホーム「コスモス苑」  
職種：介護福祉士

東辻 俊平 さん

### 勤務先紹介

特別養護老人ホーム「コスモス苑」は、人としての尊厳を保ち、明るく豊かで安心して有意義な生活をおくることを目指した老人介護福祉施設です。笑顔と思いやりを大切に、入居者に寄り添い、常に相手の立場を考えたサービスを提供するよう、職員が一丸となって運営に携わっています。ケア内容が異なる4つの「グループケア」を実践しているのも特色の一つです。

入所定員は特別養護老人ホーム50名、短期入所生活介護10名で、スタッフは、介護支援専門員含む介護係17名の他、看護係、栄養士、給食員の給食係など、臨時・パートの方を含め60名程度の職員が働いています。

## 介護福祉士からのスタート

### 介護職を目指して

子どもの頃から、身近にお年寄りの人たちがいてくれたこともあり、自然と接する機会が多かったように思います。学校帰りや出かけた先などで出会ったお年寄りの人たちと気兼ねなく話をするのが好きでした。いつも見守ってくれているという安心感がありました。そんな環境で育ったせいか、介護の仕事をしてみたいと思ったのも、自分にとってはごくあたり前のことのように思っています。人は誰でも歳をとるもので、その人の最後の人生に寄り添い、いい人生だったと思えるように支えてあげられる介護の仕事に興味があり、介護職に就くにはどのような資格が必要なのかなど、家族に相談したりしました。

調べてみると北海道広しといえど、福祉系の学科を開設している短期大学は、唯一、帯広大谷短期大学だけということがわかりました。また地元十勝の介護職には帯広大谷短期大学の卒業生が多く働いていると聞き、帯広市内に住んでいたこともあり、迷わず社会福祉科介護福祉専攻に進学し、介護福祉士の資格取得を目指すことにしました。

## 帯広大谷短期大学

開設年度：昭和35年度

所在地：北海道河東郡音更町

建学の精神：親鸞聖人の本願念佛の御教え、「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見いだすことを願いとしている。

設置学科：社会福祉科 介護福祉専攻、子ども福祉専攻、地域教養学科、生活科学科  
(2020年度)

### 介護の仕事

短期大学に入学したころは、介護についてそれほど深く考えたことはなく、単純にお年寄りの身のまわりの世話をするもので、誰にでもできそうなことだと思っていました。しかし、授業のなかで、ケアマネジメントのプロセスを学んだ時です。因みにケアマネジメントとは、介護サービスを利用する本人の要介護状態や生活状況を把握したうえで、本人が望む生活を送れるよう、様々な介護サービスを組み合わせてケアプランを作成し、そのプランに従ってサービスが提供できるよう事業者との調整を行い、実際にサービスが提供された結果を確認するという一連の業務をいいます。そのプロセスは、専門的にいえば、第1段階「インテーク」、第2段階「アセスメント」、第3段階「ケアプラン」、第4段階「ケアプランの実施」、第5段階「モニタリング」・「再アセスメント」、第6段階「終結」といった過程なのですが、その一つ一つの段階の背景には、根拠や考察、利用者理解が必要であり、介護の仕事は外側から見ているだけでは分からぬ専門性があるということを、その時強く感じました。自分が目指そうとしている福祉の世界で働くには、もっともっと専門性を身に付けるために勉強しなければならないと思ったことが強く印象に残っています。そのような気づきが今に活かされていると思っています。介護はケアの根拠や考察が大切であり、利用者の方たちがどのような生活を送りたいのか、どのような自分でありたいと考えているのかを知り、それを現場で実践できるように常に意識することが大切で、常にそうありたいと心にとめています。

### 特別養護老人ホーム「コスモス苑」に就職して

就職したコスモス苑は、北海道の東部、十勝の南に位置し、東は太平洋、西は日高山脈に接し、中央部は広大な十勝平野が広がる広尾郡大樹町に所在しているのですが、ここ大樹町は「宇宙のまちづくり」を目標に掲げ、航空や宇宙分野での実験や飛行試験を積極的に誘致しており、ホリエモンこと堀江貴文さんによる小型ロケットの打ち上げでも話題になっている町です。

コスモス苑で働き始めたころは、利用者の日々のケアで精一杯、毎日がアッという間に過ぎていきました。そのような日々のなか、ある時、学生時代から共に学んだ3人が同期として就職したのですが、この3人で次に入ってくる後輩のために大樹町の地図を手作りし、ここにはどのような施設があるのか、何ができるのか、ここでは何を売っているかなど、模造紙にまと



めて発表したことがありました。まったく打合せせずに始めたため、発表のぎりぎりまで何もできていない状況で、急いで町のあちこちに出かけて写真を撮りまくり、他の2人が地図に張り付けて紹介文を作るなど、てんてこ舞いのやっつけ仕事のようでしたが、何とか無事に完成し、発表にこぎつけたことを憶えています。同期3人が初めて一緒に取り組んだ共同作業で、今なら計画的に手際よく進めることができるとと思うのですが、当時はそんな考えも余裕もなく、お互いを信じて、短時間に一緒に何かを作りあげるという思いだけで乗り切ったといいい思い出です。この経験を通して結束力が強まり、仕事仲間としての信頼関係も深まっていったように思っています。

今でも職場の雰囲気はアットホームな感じで、職員同士の仲の良さが利用者の方々にも伝わって、思いやりのある賑やかな職場です。

## ● 上司に言われたことで印象に残っていること

就職して半年ほどたった時に、仕事でミスをしてしまったことがあります。たまたま同じ名前の利用者に対し、その人に合わせたケアをするところ、別の方の対応をしてしまったのです。介護支援者として、経験が浅いなどということは言い訳にはなりません。翌日、出勤するのが辛くなるほど落ち込みましたが、叱られることを覚悟して、正直にそのことを上司に報告した際、今でも忘れられない言葉を掛けてもらいました。「ミスをしたことはどうないこと。失敗や事故は起きるものだから。大切なのは、どのように対応したかだよ。だからその後の対応がしっかりとできて偉かったね。大事なのはミスしないことじゃなくて、ミスをした時にどう対応できたかということ。これからもミスを恐れないで頑張って！」と、怒ることもせず、その後の対応を評価してもらいました。ミスを隠さず、わからないことは周りに聞いて、事故の報告や引き継ぎを円滑に行うことができて良かったと教えてもらいました。この言葉のおかげで、今ではミスをしても、誠意をもって速やかに対応しようと心がけるようになりました。そして何よりミスをしないために、どのように取組み、進めていけば良いのかを十分に考えて、行動に移すことができるようになったと思っています。



## ● さらなる可能性を目指して

特別養護老人ホーム「コスマス苑」に就職して、今年で11年目になります。

短期大学で福祉について学ぶ過程で、その領域の広さと奥深さ、と同時に確実な専門的知識の修得が求められることを2年間の学びを通して痛感しました。そして介護福祉士の資格を取得して就職後、経験を積むにつれて、さらにお年寄りの方たちと接するうえで必要とされる知識を磨き、

自分のできる職域を広めるため、スキルアップを考えるようになりました。そのためには介護支援専門委員と社会福祉士の資格を取得することを目標に掲げ、始めに介護支援専門委員の資格を取得し、ケアマネージャーとしての業務も兼務するようになりました。今ではお年寄りの日々の生活の介助のほかに、入居されている方の介護認定の更新のための認定調査やケアプランの作成にも携わっています。

そして、社会福祉士の資格を取得するため、実務経験をもとに、通信教育課程で一年かけて勉強しました。働きながらの資格取得でしたので、レポート提出など、とても大変な日々を過ごしました。最後の3ヶ月は、平日は職場の会議室を借り2～5時間、休日は家族の協力も得ながら10～12時間程度勉強して何とか乗り切り、最終試験に合格することができました。これまでの現場や地域で学んだこと、またスキルアップすることで得られた知識を活かし、さらに経験や知識を増やしながら、高齢者福祉だけではなく、様々な福祉の現場で力を発揮することができるよう活躍ていきたいと思っています。

幸いにも地域のなかでこれまでに得ることができた専門性を活かせる募集があり、滝川市役所の職員として働くことになりました。滝川市に住んでいる方が、孤独を感じ寂しい気持ちにならないような町づくりやコミュニティを作り、この町に住んでいて良かったと思える人が増えるように、関わりや地域づくりにチャレンジしていきたいと思っています。

## 帯広大谷短期大学で学べてよかった！ 短期大学で学ぶ後輩へのアドバイス

母校である帯広大谷短期大学の先生方は、いつも学生に対しやさしく誠実に向き合ってくれます。例えば、文章作成が苦手で、実習報告や日誌作成の時には、いつも先生に聞きに行っていました。その時いつも、実習場面で私が感じたことを、文書にしやすいようにメモしてくれていたので、そのメモを見ながら実習の報告書を作成することができました。今では本当にいい思い出です。そして、卒業後は仲間のように助けてくれる存在になります。卒業し就職すると一人で頑張らなければいけないと思いがちですが、卒業後も支えてくれる場所だと思っています。この帯広大谷短期大学で様々なことを学び、就職後も安心して相談に行ってください。



恩師 正保里恵子先生から....

東辻さんは、とても明るく、周りの人に気を配ることができる学生でもあったため、クラスの雰囲気を盛り上げてくれていました。クラスメイトや教員、実習先の利用者の方や指導者の方など、多くの人との関わりの中で得たものを活かし、着実に介護福祉士の資質を高めて卒業していった学生であったと思います。卒業後も現場での経験を活かしながら、資格を積み上げ学び続けており、後輩への道しるべにもなる存在です。

# 聖和学園短期大学 キャリア開発総合学科 卒業



勤務先：宮城県黒川高等学校  
職種：宮城県職員（学校事務）

内山 陽加 さん

## 勤務先紹介

現在の勤務先である宮城県黒川高等学校は、今年創立120年を迎えた宮城県内唯一の普通科と工業系の学科がある男女共学の高校で、校訓は「公正・友愛・開拓」、通称は「黒高」です。令和2年7月現在629名の生徒が在籍しています。

工業系の学科には機械科、電子工学科、環境技術科があり、「私たちは黒高の歴史と伝統を大切にし、地域とともに歩み成長していきます。」という黒高マイスクール宣言の下、生徒一人一人が進学や就職に向けて日々勉強に励んでいます。

学校の近くには宮城県を代表する工業団地である仙台北部中核工業団地があります。

## 公務員試験を突破して活かされた司書資格

### 司書になりたい

中学三年生のときに、学校の図書館で職業紹介の本を見ていて、司書という仕事があることを知りました。小さい頃から本を読むことが好きで、よく図書館を利用していたので、本に携われる仕事ができたらいいなと思っていました。図書館で働くためには専門的な知識が必要であり、司書になるために国家資格が必要なこともわかりました。

司書の資格を取得できる進路先を探してみると、宮城県内では聖和学園短期大学のキャリア開発総合学科で取得できることを知りました。この学科には、自分に合った授業を選んで学べる9つの系統・分野があり、その中の一つに「司書・公務員系」が開設されていたのです。実際にオープンキャンパスに参加し、先生や先輩の方たちから、学科の内容や自分が学びたい分野にはどのような授業科目があるのかなどについて丁寧に教えてもらいました。先生と学生の皆さんととても仲が良く、大学全体の雰囲気もとても気に入ったので、ここで学びたいと思って進学を決めました。

## 聖和学園短期大学

開設年度：昭和26年度

所在地：宮城県仙台市

建学の精神：仏教の教えに基づく教育。自他を大切にし慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心を身につけ、「智慧」を学ぶ人間教育を通して、地域社会に貢献する有能な人材を育てる。

設置学科：キャリア開発総合学科、保育学科  
(2020年度)

### 司書になるために

昨今、司書の資格を取得しても、正規雇用による個別の求人はほとんどないと言われています。宮城県で司書として働くためには、宮城県職員（学校事務）の採用試験を受けて、合格後、図書館に配属される必要がありました。私はどこで働くにしても正規採用であることを目標としていましたので、正規の司書として働くために宮城県職員を目指しました。また、短期大学で行われた企業説明会で、市役所の方から「公務員は企業とは異なり、利潤を追求するのではなく人のために働く仕事」という話を聞いたことも、公務員になりたいと思ったきっかけのひとつです。その言葉にとても感銘を受け、公務員という仕事は自分の職業観にとても合っていると感じました。

明確な目標に向かって、入学当初から公務員試験一本に絞り、先生に紹介してもらった問題集などを参考にして毎日コツコツと筆記試験対策を取り組みました。授業のない時間帯には図書館を利用し、常に小さな参考書を持ち歩き、通学の電車の中でも使える時間はフルに活かしました。面接対策についても、空き時間や一日の授業が終ってから先生に時間を割いてもらい、熱心に対応していただきました。

### 東日本大震災を経験して

短期大学に入学後、資格取得に向けた勉強と就職活動を並行した学生生活が始まりました。試験対策に明け暮れるなか、まもなく2年生という2011年3月に東日本大震災が発生しました。ライフラインが途絶え、交通機関が麻痺し、水道が復旧するまでの間、ほぼ毎日、給水の列に並びました。今まであたり前のように周りにあったものが突然無くなってしまったことで、普通に生活できることがいかに有難いことであったかを思い知らされました。幸いにも実家に大きな被害はなく、早めに通常の生活を送れるようになりましたが、今までの生活のリズムや周りの環境が大きく変化したことにより、勉強に集中できない日々が続きました。春休みが伸び、一ヶ月遅れて2年生がスタートしたものの、勉強へのモチベーションを維持することにとても苦労しました。不安を抱えながら、生活リズムの整った日常生活の大切さを感じていました。

### 充実した2年間

東日本大震災という大きな出来事に見舞われましたが、振り返ってみれば、短大生活はとても充実していたと思います。2年という在学期間は、中だるみすることなく、メリハリのある生活を送ることができたちょうどいい期間だったと感じています。入学したその日から卒業後のことを考え

え、就職活動を意識した学生生活が始まりました。時間が限られていたからこそ、小さな目標から大きな目標まで、集中的に取り組むことができました。

公務員試験や資格試験で忙しく、学校行事の準備にまで手が回らなかった時に、手助けしてくれた友人たちの存在も大きかったです。みんなの協力がなければ、到底乗り越えることはできなかつたのではないかと思っています。心強く支えてくださった先生方ややさしく見守ってくれた友人たちに感謝しています。

## 念願かなって

“とにかくやるしかない！”という強い気持ちで勉強や対策を行っていましたが、公務員試験にすべてを賭けていましたので、もし落ちたらどうしよう…という不安な気持ちもありました。公務員試験は民間企業と比べて最終採用通知が遅いこともあり、友人や他のゼミの学生の進路がどんどん決まっていく中で、一人取り残されていくようなとても不安な日々を過ごしたことを記憶しています。

合格発表はインターネットで確認したのですが、苦楽を共にした一番仲が良かった友人も一緒にいてくれて、合格がわかった瞬間、彼女も自分のことのように喜んでくれ、一緒に泣いてしまったことを覚えています。そのときは、嬉しいという気持ちよりも、正直、ほっとしたという開放感の気持ちの方が大きかったです。

宮城県職員として採用後、三年目に念願がかなって仙台市に所在する宮城県立の図書館に配属されました。図書館は接客業であり、不特定多数の利用者が様々な要望を投げかけてきます。ただ単に本を貸出しするだけでなく、利用者のクレーム対応も少なくありません。勤務していた宮城県図書館は、正規の職員、嘱託職員、臨時職員、パート職員、ボランティアの方など様々な立場の方と一緒に働いていましたが、利用者にとっては全員が等しく宮城県図書館の職員です。聞かれたことや寄せられた要望などに対し、職員一人一人が利用者の方と向き合い、不満を抱かせずにきちんと対応することが求められます。それはとても難しいことですが、小さなことでもすぐに職員同士団結して、ホウレンソウ（報告、連絡、相談）を徹底し、利用者の方々の対応に臨めるようにしていました。その時、職員同士の連携の大切さを学びました。図書館で様々なお客様対応を経験したこと、接客の仕方や電話対応について自信を持てるようになりました。人に対する態度や物事の伝え方、話の聞き方など、はじめのうちは外部の方とのコミュニケーションがうまくいかず悩みましたが、経験を重ねることで少しづつ自信が持てるようになりました。



## 経験を積んで、自分の強みを見つけていく

公務員は、数年おきに異動があり、今までとは全く異なる職種に配属されることもしばしばあります。現在は、高校の事務職員として勤務して2年目になります。学校事務に異動したばかりの頃は、出来ない・知らない・分からぬ、が揃った仕事に直面し、これまでやってきた仕事の内容とはがらりと変わり、とても大変でした。

今は主に、県や学校の予算で必要物品を購入、非常勤講師の方の賃金や社会保険関係の業務を担当しています。お金を取り扱う業務が多いため、絶対に間違えられないというプレッシャーや辛さを感じることも多々あります。初めて挑戦することが多く緊張の毎日ですが、前向きに捉え、その中で自分の強みになるものを見つけていきたいと考えています。今後、配属先が変わっても、その強みを武器に自信を持って仕事に携われるよう努力していきたいです。そしていつかまた図書館司書の仕事がしたいと思っています。今まで一つ一つの仕事に不慣れで、知識が途切れ途切れの状態でしたが、経験年数が増えるにつれて、業務と業務の繋がりが見えてきました。より広い視野を持って図書館に戻り、司書の業務にあたることができたらと思います。



## 短期大学で学ぶ後輩へ

短期大学在学中に東日本大震災を経験しました。このような経験から、今、短期大学で学ぶ皆さんに伝えたいことは、学生として様々な課題に向き合う皆さんをサポートしてくれる周囲の人々に感謝し、勉強も就職活動も、真面目に取り組んでほしいということです。今は大変だと思っていても、学生時代に頑張った経験は、いつか必ず役に立ちます。学生生活を有効に活用して、自分の思い描く進路に繋げてください。



恩師 鳴海渉学長から....

内山さんは目標をしっかりと持った学生でした。司書は狭き門で、公務員にならなければ図書館で働くことのできない職種です。宮城県職員に合格した時の顔が忘れられません。高校に赴任し、希望がかなって県図書館、今また高校にいますが、司書には経験が必要です。「安らぎ」も加えてレファレンス出来るよう頑張ってほしいと思います。



勤務先：帝国ホテル東京  
職種：調理師

## 伊東 龍之介 さん

### 勤務先紹介

株式会社帝国ホテルの直営である帝国ホテル東京は、東京都千代田区所在 本館地上17階 地下3階、帝国ホテルタワー地上31階 地下4階。従業員は3,000名ほど、うち料理人は300～400名です。

帝国ホテルは、1890年に開業し、130周年を迎えます。日本で最初に、ランドリーサービス、ホテルでのウェディングサービス、バイキングスタイルの食事を始めたホテルとしても有名です。

料理に関しては、料理界ではとても偉大な初代帝国ホテルの総料理長村上信夫ムッシュの料理の伝統をベースに革新を続けています。シャリアンステーキ、海老と舌平目のグラタンエリザベス女王風などが代表的な料理となっています。

## ミシュランの星をめざして

### 料理人になりたい

僕は岩手県出身で、高校まで地元で過ごしていました。進路で悩んでいた高校3年生の頃、「天皇の料理番」というテレビドラマを見て、料理人という職業に触発されました。それまでほとんど料理をしたことがなく、料理業界のことも全くわからなかったのですが、日本が誇る帝国ホテルで料理をして、お客様に食べてもらいたいという夢ができました。

### 経験ゼロからのスタート

料理人になるためにどんな学校があるのか調べると、働きたいと思っていた帝国ホテルに国際学院埼玉短期大学の卒業生が数多く就職していることを知り、オープンキャンパスに参加しました。体験授業で料理を作っていると、一人の先生から料理を本格的に学べば、料理人として期待できると言われ、授業が少人数制で一人一人丁寧に指導してくれることに魅力を感じ、この短期大学で

## 国際学院埼玉短期大学

開設年度：昭和58年度

所在地：埼玉県さいたま市

建学の精神：誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦

設置学科：健康栄養学科 調理製菓専攻、食物栄養専攻、幼児保育学科  
(2020年度)

料理の勉強をしたいと思いました。

短期大学では、全く料理の経験がなかった僕を先生方がゼロから熱心に指導してくれました。一番印象に残っているのは、学修成果の発表の場である「五峯祭」で初めてお客様からお金をもらって、普段の実習とは違う緊張感の中で料理を作るという体験をしたことです。西洋料理を担当して、グループの皆でオムライスを軸にメニューを考え、2日間で1600食売り上げたことは、とても達成感が得られました。

### “料理が大好き”な気持ちにしてくれた短期大学での日々

短期大学に通いはじめ、ますます料理をすることが好きになりました。“料理が好きだ”という気持ちだけで、こんなにもできることが増えるのだと自分でも驚くほどでした。

普段の生活、授業、調理実習、五峯祭等、短期大学での経験が今でも活かされていると思います。そこには本当にたくさんの思い出があり、料理人としてはもちろん、人としても成長できた部分が多く、何よりも素敵な先生や友人と出会い、充実感のある短期大学生活を送ることができたことは、僕の財産になりました。

### 帝国ホテルのシェフとして働く喜び

念願かなって、帝国ホテルに就職することができました。今年で3年目になります。今はホテルの17階にあるラウンジレストランで働いています。昼はアフタヌーンティー、アラカルトを、夜はバーに変わり、3つほどのプラン料理とアラカルトを提供しています。また、昼夜10食限定で、



1万円ほどの季節の食材を活かした三段弁当を作っています。

アフタヌーンということもあり、キッシュ、煮込み、サンドイッチなど、毎月メニューが変わり、多いときは200人前後の仕込みをすることがあります。さらにディナーの準備。週末は平日に比べてとても多くのお客様がいらっしゃいますので、膨大な注文が入り、てんてこ舞いするほどの忙しさですが、とても充実しています。

入社したばかりの頃はサイドと言った、サンドイッチやサラダなどの料理を担当していましたが、半年ほどたってからはストーブ（コンロ・オープン台）の担当も少しずつ入るようになり、魚、肉の火入れや、パスタ、ソースなど温かい料理を提供するポジションもやらせてもらえるようになりました。

たまに裏方からお店の方に顔を出すのですが、とても幸せそうに食

事をされているお客様の姿や、美味しかったと言っておかわりしてくださる時にはとても嬉しく、この仕事をやっていて本当に良かったと思います。

## 大切な教え

毎日出勤した際には、布巾の数、置く位置、畳み方、包丁の置く位置、その他器具の配置、冷蔵庫の中など、全て自分の決めた位置に置くようにしています。必ずいつもの決めた位置に全てを配置してから、営業できるようにスタンバイする。それは先輩から「日頃の業務は綺麗に保ちながら仕事した方が身につく」とアドバイスされたからです。周りを常に綺麗に保つことを意識しながら仕事をすると業務がとてもスムーズに進むことを身をもって実践しています。

ちょうど1年たった頃、アフタヌーンティーを提供しているときに「お客様に料理を提供している私たちは、同じ料理を何百皿も作ってお出ししているけれど、お客様にしてみれば提供された一皿が全てだから、全部同じクオリティで作らないといけない。それがプロだ。」と上司から言われたことがありました。とても印象に残っています。この言葉を思い出すたびに、自分はまだまだだな、と感じますが、とても良いモチベーションとなっています。よく料理人は低賃金で重労働といわれ、あまり良くないイメージを持たれているようですが、僕はお客様を幸せにする事ができる自慢の仕事だと思っています。

## 苦しい時に周りの人達に支えられて

入社したばかりの頃、仕事が思うようにうまくいかず、思い詰めて大好きな料理をやめたいと思うようになりました。仕事に行けなくなりました。辛い時期を過ごし、実家に帰省することもありました。そこで、久々に料理をして、家族に食べもらった時、“とても美味しいよ”と言ってくれたことが、素直にとても嬉しく、これがきっかけとなり、改めて料理は楽しい、もっと頑張ろうと、再出発をすることができました。短期大学の先生や、友人、職場の人達も親身になって励ましてくれました。約1ヶ月休職をしましたが、その間僕を待っていてくれた会社の人たちには本当に感謝しています。

ある日、シェフに「コンクールに出場してみたら」と言われ、休職して会社に迷惑をかけたので、挽回したいという気持ちで、コンクールに出場することを決めました。職場の厨房が使えない日は、母校の実習室を借りて、練習に励みました。その甲斐もあり、予選を通過することができました。難しい課題でしたが、自信にも繋がりました。予選を通過したことでの職場の人



たちから僕を見る目がすごく変わったと実感することもできました。決勝に向けて先輩と日々練習しましたが、残念ながら入賞はできませんでした。しかし、入社1年目でコンクールに出場したことで、向上心をもつようになり、今もコンクールの出場の話があれば、迷わず参加するようにしています。

忙しい日々ですが、仕事終わりに食事や飲みに連れてってくれる職場の先輩にも支えられています。他の部署の先輩とも交流がありますが、10も歳の離れている国際学院の先輩がいつも僕のことを気にかけてくれています。料理人としてはもちろん、人としても尊敬できる先輩が職場にいてくれることはとても心強いです。

### ミシュランの星をめざして

30歳前半には東京で自分の店を開いてミシュランの星を取りたいという大きな夢を持っています。そのために26歳頃にはフランスに行こうと考えています。以前からフランスへ行くことは考えていましたが、尊敬するシェフから「フランスに行って、頑張ってきなさい」と言ってくれたことで、より意欲が高まりました。26歳になるまでにフランス語、料理技術、知識の向上、貯金をして、本場フランスで修行をし、東京で店をオープンさせたいと夢は膨らみます。僕の出身地岩手県には、海産物、ホロホロ鳥、野菜などの特産物が豊富にありますので、それらの食材を生かした美味しい料理を全国に発信したいです。

### 後輩たちへ

「好きこそ物の上手なれ」という言葉のように、とにかく自分の好きなものを見つけてそれを突き詰めてほしいです。もちろん休みもお金も大事ですが、それは後からついてくると思います。若いうちにたくさんのこと挑戦して、自分の好きなこと、本当に今、やりたいことを実行して欲しいです。それが料理だったら僕は嬉しいです。料理は絶対になくならないし、本当に人のことを幸せにできると思います。家族を作るにしても、恋人を作るにしても、お客様を作るにしても、それぞれに思いがあり、形があり、愛があると思います。そんな素晴らしい仕事をする人がもっと増えているって欲しいです。



恩師 大 雅世先生から....

伊東さんは、在学中、様々な場面で存在感ある学生でいつも目を輝かせていました。学習面においては、「調理理論」で特に優秀な成績を修め、帝国ホテルにおける校外実習では、少しでも多くのことを学びたいとの熱意から実習期間延長を申し出ました。大学祭の模擬店では、伝統料理であるオムライスづくりに取り組み、毎年来場する方々からも特に美味しいと絶賛されていました。「奮励努力」の言葉が似合う伊東さんには、これからも夢の実現に向けて成長し続けてほしいと願います。



勤務先：東秩父村立城山保育園  
職種：保育士

### 勤務先紹介

東秩父村立城山保育園は、埼玉県唯一の村である東秩父村に所在しています。その地域の中の唯一の保育園です。現在は、0～5歳までの園児32名が通っています。

豊かな自然に囲まれた保育園で子どもたちの健やかな成長を職員一同で見守っています。

保育園では地域の人々との繋がりを大切にしており、日常的に行っている散歩では近隣の方との挨拶は欠かさず、園児たちと地域の交流を深める様々な行事を企画し、開催しています。

## 太幡 英輝さん

### みんなから頼られる保育士になるために

#### 子どもたちの成長を見守りたい

高校3年生の秋ごろ、そろそろ本気で将来について考えなければと思いながらも、放課後は小学生の頃から通っている剣道の道場に足を運んでいました。道場では子どもたちに剣道を教える手伝いをしていました。自分も昔は、先生に親身になって指導してもらっていたので、同じように子どもたちに剣道を教えていました。何度、練習しても上手くできなかった子どもが上達していく姿を見ると、自分で嬉しくなりました。「こんなふうに子どもの成長を見守る仕事ができたらどんなに幸せだろう。」と思い、保育士という職業を意識するようになりました。

#### 早く現場に出たい！

少しでも早く現場に出て経験を積みたかったので、2年間で保育士資格と幼稚園教諭の免許を取得できる短期大学に進学したいと思っていました。高校の先輩が貞静学園短期大学に進学していたため、キャンパスでの様子を聞くうちに、自分も同じ短期大学で学びたいと思うようになりました。

## 貞静学園短期大学

開設年度：平成21年度

所在地：東京都文京区

建学の精神：「至誠（心から誠実に人と向き合う）」、「和敬（人を敬い人と協調していく）」、「慈愛（人やものを大切に慈しむ）」

設置学科：保育学科  
(2020年度)

### 学園祭の企画・運営に携わって

短大生活で特に印象に残っているのは、学園祭の実行委員長を務めたことです。自分達の力だけで学園祭の企画から運営まで行うのは初めての経験だったので、無事に成し遂げられるか不安でした。限られた時間の中で仲間と協力し合うことの難しさを感じましたが、みんなで同じ目標に向かって取り組む時間はとても有意義なものでした。学生の主体性を尊重しつつサポートしてくれた先生や職員の方々の協力もあり、大きなトラブルもなく、無事に学園祭を開催することができました。このように大きなイベントである学園祭を企画・運営した経験は、保育の現場で行事を運営する際に活かされていると思います。

### 実習は苦労の連続

保育園実習では、初めて書く実習日誌やピアノの演奏にとても苦労しました。特にピアノは苦手でしたので、必死で練習した記憶があります。実習期間中は、身体的にも精神的にも疲れ切っていましたが、園児たちの笑顔を見るとその瞬間だけは疲れが吹き飛びました。園児が「せんせー！」と駆け寄ってくる姿を見ると、その度に幸せな気持ちになりました。ただ、園児たちの期待に応えようと、調子に乗って遊びすぎてしまい、実習先の先生に怒られてしまうこともあります。慣れないことばかりで苦労も多かったのですが、子どもと関わる仕事の素晴らしさを感じることができた貴重な経験となりました。

### 保育士として働く喜び～すべては園児のために～

保育士として現在の勤務先で働くようになって、10年目になります。

今年度は担当のクラスを持っていないので、忙しいクラスがあれば補助に入るようになっています。それ以外では、主に3歳から5歳までの幼児クラスの保育運営の取りまとめや、園内の整備・掃除、壁面制作や事務作業等を担当しています。

園児たちと過ごす日常が何よりも楽しく、保育士として働く励みにもなっています。花や蝶々を見て「きれいだね。」と感動を共有したり、原っぱに寝転んで「気持ちいいね。」と喜びを分かち合う時など、保育士になって本当に良かったなと改めて感じます。

園児の中には様々な問題を抱えた子どもがいて、担当の保育士だけでは手に負えなくなることがあります。そんな時には、園全体で支援できるように職員会議を開き、その園児に対する保育方針について話し合いの場を設けるようにしています。時には職員の間で意見が食い違い、話し合いが

難航することもありますが、それでも、園児たちが安心して保育園に通える環境を作ることを共通の目標として、日々、協力し合っています。

短期大学に在学中、「幼児期の運動認識」の研究に力を入れたことがありました。それは子どもが目で見た動きをどのように捉えて表現できるかについての研究でしたが、その中で、子どもたち一人一人の認識の違い、表現できることの違いを知り、それがどのような原因からきているのかを考える力を養うものでした。その時、物事を表面的に捉えるのではなく、本質をしっかり理解していくことの大切さを学びました。保育現場ではその学びを活かし、運動だけではなく、生活の中でもこの考えに基づき、子どもたちの気持ちを理解して援助できるよう心がけています。



## やりがいを感じる瞬間

保育士としてやりがいを感じられるのは、対応が難しかった子どもが自分を信頼してくれるようになったときです。今でも思い出すのは、担当クラスの女の子との思い出です。その女の子は母親の仕事が忙しくなり、なかなか構ってもらえない寂しさからか、わがままばかり言い、いつも以上に甘えるようになったことがあります。その状況が半年ほど続き、このままでいいのか悩むようになりました。

いつもお昼寝の前にトントンする行為があるのですが、ある時、それができなかったことがあります。様子を見に行くと、布団にくるまって、声を出さずに泣いていました。びっくりして声をかけましたが、「一人で寝るからあっちに行って！」と泣きながら言い、背中をさすってあげるとすぐに寝つきました。その姿を見て、彼女が今、どんな気持ちでいるのか、彼女にとって自分はどんな存在で、どう接したらよいのか、を改めて考え方直してみました。それからは悩むのはやめ、素直に彼女の気持ちに向き合い、寄り添うよう努めました。そしていつの間にか甘えてくる行為はなくなっていました。

彼女と接するなかで、実践記録をつけながら成長を見守っていましたが、甘えるという行為は自分を信頼してくれているからこそで、その想いが受止められたときの彼女の満足気な笑顔を今でも忘れることができません。本当に嬉しかったです。

## 男性保育士としてできること

以前、男性保育士の先輩から、「雑務をこなしてこそその男性保育士」と言わされたことがあります。その言葉を胸に、男性保育士として力仕事や運動遊び、草刈りなどは率先して担当するように心がけています。行事等で、重いものを運んだり、高いところに飾り付けをする時には、女性保育士の

負担を減らすため、自ら進んで動くようにしています。

また、男性保育士として、保育園の中だけでも、頼りになる父親のような役割を果たしていくのではないかと思っています。中には育児に悩むお父さんにとっては、女性保育士よりも同性である男性保育士の方が相談しやすい面もあるかもしれません。こちらからも積極的に話しかけるようにしていければと思っています。

## 地域全体で子どもたちを見守りたい

保育園が所在する東秩父村では、年々出生数が減少し、人口も減っています。このような地域で育つ子どもたちには、より多くの地域の人たちとの繋がりを持ってほしいと思っています。そのためにも、日頃から、近隣住民の方々への挨拶や、地域の老人ホームにお邪魔して園児による歌の発表を行うなどしています。また、地域の太鼓の会やお年寄りの方々に園に来てもらい、交流の場を作っています。

これからも、保育園の中だけでなく、地域全体で子どもたちを見守っていけるような環境づくりに力を入れていきたいと考えています。

そのためにも将来的には、小さなカフェを開き、地域の様々な年代の人たちが集まって交流できる場を作りたいと思っています。保育士としての経験を活かして、子育て支援や地域支援にも取り組んでいきたいと考えています。

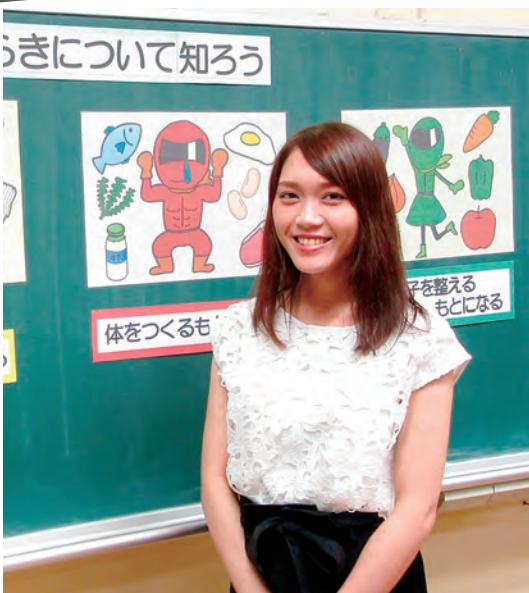


恩師 桑原章寧先生から....

太幡君は、秩父から都内まで2時間以上かけて、2年間通い勉強に励みました。彼がいるところがパッと明るく、楽しい雰囲気になります。いつも多くの友だちに囲まれていました。学園祭では実行委員長として全体をまとめ、大いに盛り上げました。

結婚の報告を聞き、お兄さんの存在からお父さんの存在として、職場でさらに活躍されることを楽しみにしています。

名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻 卒業  
名古屋文理大学 健康生活学部 健康栄養学科 卒業



勤務先：名古屋市立篠原小学校  
職種：栄養教諭

安井 咲さん

勤務先紹介

勤務校である名古屋市立篠原小学校は、名古屋市中川区丸米町に所在する公立小学校で、校訓は、強く、正しく、明るい子で、実践力のある子どもの育成を目指しています。児童数は545名、喫食者数は590食です。

また栄養教諭は、教育委員会より近隣の小学校を担当校として指定され、現在、名古屋市立昭和橋小学校（児童数520名、喫食者数570食）及び名古屋市立玉川小学校（児童数320名、喫食者数340食）を担当しています。

## 栄養教諭として 子どもたちに寄り添いたい

### 偏食だった子どものころ

小学生の頃は、食べ物に対する好き、嫌いが激しく、食べられないもの、食べたくないものが多くありました。学校生活の中で、給食の時間は大嫌いで、食べ終わるのもクラスで最後でした。そんな時、転校した先に栄養士の先生がいました。給食の時間にたくさん声をかけてもらい、いろいろな話をしながら、やさしく接してもらったのがきっかけで、食べられるものがずい分増えました。そのことが心のどこかに残っていたのか、高校進学の際には食べ物に関わりのある学科に進みたいと思い、食物科に進学しました。高校で食に関わる仕事について考えるようになったときに、学校で働く栄養士になりたいと思いました。ただ、そのころはまだ公務員として学校で働くことは、将来的に安定しているという漠然とした印象が強かったです。

## 名古屋文理大学短期大学部

開設年度：昭和41年度

所在地：愛知県名古屋市

建学の精神：自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観をつちかい、世界から信頼される日本人を育成する場である。

設置学科：食物栄養学科 栄養士専攻、製菓専攻  
(2020年度)

### まずは栄養士と教員免許を

高校を卒業後、名古屋文理大学短期大学部の食物栄養学科栄養士専攻に進学しました。栄養士免許証を取得するための勉強に加え、栄養教諭の教職課程を履修したため、空きの時間などなく、時間割は6限目まで毎日ビッシリ！今思えばひたすら授業を受けていたという印象です。給食管理についてなど、必要なことをたくさん学びました。

それぞれの勉強を進めるなかで、栄養教諭にとても魅力を感じるようになりました。給食や食に関する指導を通して子どもたちの食生活を見守り、未来の食生活を形成させていく、それはとても難しいことではありますが、反面やりがいのある仕事だとも感じました。

### 栄養教諭になりたい！

栄養教諭になりたいという想いが膨らんでいき、子どもたちへの接し方や授業の方法など、教職をとっている仲間たちと何度もシミュレーションを繰り返し、意見交換をしました。アクティブラーニングによる授業はとても効果的で、学ぶことが多かったです。

短期大学を卒業すれば、食育や学校給食の管理を行うことができる栄養教諭2種免許状を取得できますが、教育実習に行った際、栄養教諭の先生から、将来のことを考えるなら、1種免許状を持っていたほうが、仕事の幅も広がり、自分のやりたいと思う仕事ができるようになるから頑張ってみたらというアドバイスをいただきました。短期大学に入学した時から就職について考えていましたが、栄養士としての知識をもっと深めるために管理栄養士の資格をとり、子どもたちと深く関わる活動をするために栄養教諭1種の免許状を取りたいと強く思うようになりました。短期大学には大学が併設されていたため、四年制大学への編入学を決意しました。

### 専門性を高めるために四年制大学へ

名古屋文理大学には、短期大学から健康生活学部健康栄養学科の3年次に編入学できる制度があり、管理栄養士と栄養教諭1種免許状の取得を目指すことにしました。大学では、短期大学に比べるかに多いカリキュラムが用意されていて、実力のある管理栄養士を育成するための教育が充実していると感じました。また栄養教諭を目指す人たちも短期大学に比べて多く、お互いに切磋琢磨しながら、教員として授業をすることを夢みました。

また大学には多彩なゼミがあり、私は栄養教育に関するゼミに参加しました。実習とは別に、小学校に行き、実際に子どもたちと係わる活動をしたり、中学校で食育劇を制作して実演するなど、

子どもたちと直接触れ合う活動ができたことも、とても刺激を受け、よい勉強になりました。

大学4年生になった頃には、管理栄養士の試験勉強が本格的に始まる同時に、栄養教諭の採用試験にも取り組まなければならず、たいへんな日々を過ごしました。どちらも自分にとって大切なものだったので手が抜けず、授業が終わってからもゼミ室にこもり、ひたすら勉強しました。振り返ってみれば、この時が自分の人生の中で一番頑張っていたころだと思います。自分の夢のために努力を惜しまないことがとても大切なのだということを学んだ一年でした。

## 念願の栄養教諭になって

大学を卒業して念願の栄養教諭になり、今、小学校で子どもたちの食事や栄養についての教育や食育を行っています。栄養教諭の役割として、食に関する指導や学校給食の管理がありますが、栄養の知識を活かして、食事の必要性や栄養の大切さをわかりやすく伝えていきたいと思っています。肥満や偏食、食物アレルギーなど、個別指導を行うこともあります、子どもたちと仲良くコミュニケーションをとることが求められます。

現在は、自分が在籍している小学校のほかに担当校として2校を受け持っています。基本的には、在籍校で給食管理の業務を行い、午後は事務作業などを行っています。給食時には各クラスを見て回り、子どもたちに声をかけながら、食事の様子に気を配っています。食生活を取り巻く環境が大きく変化するなか、朝ご飯を食べてこない子ども、偏食やアレルギーのある子どもなど、様々な事情を抱えた子どもたちがいます。担任の先生と連携をとりながら、食に関する指導を行っています。

なかなかすべてのクラスを回ることは難しいのですが、子どもたちが私の姿を見つけて、苦手な食べ物を頑張って食べたよ！と言ってくれることがとても嬉しいです。食に関する指導のなかで、牛乳の大切さを話した時に、牛乳が苦手で飲めない子どもが、その子なりに一生懸命飲もうと努力している姿を見たとき、また野菜がどうしても食べられない子どもが何とか頑張って食べようとしている姿を見たときは、とても愛おしく、やりがいを感じさせてくれます。苦手なものを食べたりするのは、子どもたちにとって、とても勇気のいることです。子どもの立場に立って声をかけ、指導することの大切さをいつも心にとめて接するようにしています。

担当校には食に関する指導やアレルギー対応のため、月に2回程度出かけています。時間としては3時間程度ですが、担当校の子どもたちと関わるとても大切な時間です。



## 上司に言われたことで心に残っていること

職場は若手の先生が多く、活気があり、ベテランの先生方も若手の先生の意見をよく聞いてくれますし、親身になってアドバイスもしてくれます。以前、「食は生きることにつながる大切なこと。だから栄養教諭への期待も高くなっている。子どもたちの未来のために、しっかり学び、丁寧に教えてあげてくださいね。」と言われたことが印象的でした。栄養教諭は全校に配置されているわけではないので、出会うことのできた子どもたちとは、親身に関わっていきたいと思っています。



## 将来にむけて

今の小学校に勤務して4年目になります。まだまだ働き始めて間もないで、今の職場の環境や子どもたちに甘えてしまっているところがあります。栄養教諭として、子どもたちに少しでも食の興味・関心を高めてもらえるよう、これからもしっかりと学び続け、子どもたちと日々成長し続けたいと思っています。

そして、私が偏食だった子どものときに、やさしく接してくれた栄養士の先生のように、いつか子どもたちが大人になっても、私のことを憶えていてくれるような存在になれたらと思っています。

## 短期大学で学ぶ後輩へ一言

短大生だったころ、文化祭のどんぶりコンテストで、自分が起案したどんぶりを販売したこと、見事、優勝することができたこと、自分のグループが考えた給食献立を保護者の方が集まる場で提供させていただいたことなど、忙しい2年間のなかでも、目標をもって学ぶことで、たくさんの知識や経験を積むことができ、確実に自分の力となりました。後輩の皆さんも、何気なく2年間を過ごすのではなく、自分の目標をしっかり持って学んでほしいと思います。



恩師 日比野久美子先生から....

安井さんが短期大学を選択した理由は、調理や給食をしっかり学べるからということでした。調理コンテストでリーダーシップを発揮していた姿が印象に残っています。ガリ勉タイプではありませんでしたが、目標の栄養教諭免許取得に向けて、一生懸命に取り組んでいました。

短期大学というファーストステージから目標に向かって頑張っている姿は、後輩たちの目標になります。倦まず、弛まず、諦めず、歩みを進めていくことを願っています。



勤務先：航空自衛隊 小松基地  
第6航空団飛行群第306飛行隊  
職種：航空機整備員

## 加藤 宏実 さん

### 勤務先紹介

航空自衛隊は平時から有事まで一貫してわが国の空の平和と安全を担う唯一の組織です。小松基地は日本海側唯一の戦闘機部隊が所在する基地であり、対領空侵犯措置の任務を与えられ、主に日本海正面における国籍不明機の警戒に当たっています。第六航空団は全国にある航空団のうちの一つで、第306飛行隊は、F-15戦闘機の中でも近代改修された最新の機体を運用する部隊です。全国から選りすぐりのパイロットを集めて戦技教育を行う戦技課程を有しており、日本における「トップガン」の部隊です。隊のマークである「ゴールデンイーグル」は石川県の県鳥である「犬鷲」をモチーフにしており、「犬鷲魂」の精神を胸に、日々精進しています。

## 戦闘機の美しさに魅せられて

### 夢の始まり

高校1年の9月、偶然訪れた小松基地での航空祭で自衛隊が保有する航空機を初めて見た時、とても綺麗で、「こんなかっこいいものがあるのか！」と衝撃を受け、一瞬にして心を奪われました。その時、航空機に携わる仕事をしてみたい！と憧れを抱いて以来、その思いが心の片隅に芽生え始めました。

### 夢の実現に向けての学び

滋賀短期大学に進学したのは、実家からも近く、2年の間に様々な資格が取得できるところに惹かれたからです。私が入学したビジネスコミュニケーション学科には、当時5つのコースがあり、その中の一つ、ロジスティクスビジネスコースを選びました。このコースは、原材料や部品の調達・製造・販売から顧客への商品の配送に至るまでのモノの流れをデザインし、マネジメントできる人

## 滋賀短期大学

開設年度：昭和45年度

所在地：滋賀県大津市

建学の精神：心技一如（しんぎいちによ）

設置学科：ビジネスコミュニケーション学科、生活学科、幼児教育保育学科  
(2020年度)

材を育てるというコースでした。（現在は、ビジネス実務コース、地域ビジネスゼミに名称変更）

このコースには取得できる資格が多く用意されていて、積極的に車両などの免許を取得しました。フォークリフトや小型移動式クレーン、玉掛けの免許を取得しましたが、その際、同級生たちと共に教えあい、切磋琢磨しながらチャレンジできたことは、今でもいい思い出になっています。今の仕事に航空機を牽引することが業務の一つにありますが、これは普通免許を取得していなければできません。入隊前に免許を取得できていたのは本当に良かったと思っています。

また在学中、一般教養を身につけるための共通科目として、「統計学」を履修しました。日頃メディアなどで見るアンケート結果の算出がどのように行われているのかが想像できるようになりました。これは学ばなかつたら全く知らずにいたことです。身の周りにあるものは見えていないもので作り出されている、あれは恐らくこうしてできているのだろう、あるいは別の方法かもしれないなどと考えをめぐらせることが自然に習慣となりました。この学びは純粋に楽しいという印象と同時に、自分にとって知る事の大切さを実感させてくれました。今でも業務に臨む際に自分の支えになっています。

### 留学生との出会い

同じコースに中国からの留学生が在籍していましたが、出会ったころは言葉がうまく通じず、コミュニケーションをとるのがとても難しかったです。お互い日本語を介して話をしましたが、なかなか思ったことが相手に伝わらず、最初はとても苦労しました。彼女とは卒業までの2年間とともに仲良く過ごしましたが、その間、辛抱強く言葉を重ねたり、表現の仕方を変えたりするなど、試行錯誤を繰り返しながらコミュニケーションをとろうと努力したことを覚えています。意思疎通が苦手な自分にとって、彼女との交流が今でも印象に残っています。

### 夢、ふたたび

短大1年生の11月、たまたま基地見学の企画として岐阜基地のイベントに参加する機会があり、基地内の施設見学や、実際に航空機をみせてもらいました。そこに勤務されている方から、入隊しようと思った動機、現在の仕事の内容、やりがい、辛いことなど、いろいろな話を伺い、刺激を受けました。その時に航空機の整備に大きな魅力を感じ、高校生の頃から航空機に憧れ続けていた気持ちがふたたび湧き上ってきました。

実際の就職先として視野に入れたのは2年生になった春頃です。

## 自衛隊へのアプローチ

短期大学に募集があったのかもしれません、私は自ら地方協力本部の事務所に行きました。その過程でイベントがあり、それを通して受験をすることになりました。入隊時の職種等は決まっておらず、初めは一般曹候補生、または自衛官候補生という制度を選んで受験をすることになっていました。私は一般曹候補生として、主に筆記試験と面接の勉強をしていましたが、身体検査もあったので、普段以上に自分の体調に気を遣い、規則正しい生活を送ることに努めしていました。

合格の通知を受けた後は、知人と一緒にランニングなどをして、体力作りに励んでいたことを憶えています。



## 憧れの自衛隊に入隊して

入隊して5年、現在は航空自衛隊で航空機（戦闘機）の整備をしています。具体的には国籍不明機に対応するための航空機の発進支援や飛行訓練前後の航空機の点検、燃料等の補給、整備記録の作成等を行っています。当時、整備職として小松基地に配属になったのは、私を含め8人、私以外は全員男子でした。

入隊当初は心身どちらの面についても不安がありました。男性と比べて体力が劣っていること、うまく人付き合いができるかどうか、精神的に辛いことが多いと予想され、それに耐えられるかどうか最も正直自信がありませんでした。

実際、今日まで働いてきましたが、初めの頃と比べればかなり慣れてきたと思っています。職場の多くの先輩方が優しく接してくれたこともありましたが、慣れるまでお互いにしっかり意思疎通を重ねるように努めた結果だと思います。自衛隊は男社会だと思いますが、結局のところお互い人間なので自分のペースで関わりあうことを繰り返すことはできると思っています。

仕事の内容は国防に携わるという点において特殊ですが、ここまで挫けず、諦めずに続けてこられたことを誇りに思っています。実際に戦闘機の整備をするにあたり、色々な苦労もありましたが、この職種についてよかったですと思っています。出来る業務の範囲が広がったり、その業務につい

て信頼してもらえることは何よりも嬉しいです。

これからもっと研鑽を積み、業務のことはもちろん、その他のことも多く学んでいき、今よりもっと貢献できるように励んでいきたいです。

### 一番辛かったこと

業務の関係上、どうしても勤務時間が長くなってしまうこともあるので、その状況に慣れるまでがとても大変でした。毎日が必死で、また覚えなければいけないことも多く、同時に力仕事も多かったので、入隊してから間もない頃は作業に手こずったり、先輩方が簡単にやっている作業でもなかなか上手にできなかったので辛かったです。それでも真摯に向き合い続けたいと思っています。

### 上司に言われたことで印象に残っていること

「規則は読め」という言葉はいつも肝に銘じています。民間の会社でもそうかもしれません、この職場では特に法や規則に則って動くことが責務です。何かをするに際しては、必ず関連する規則を読むように心がけています。

### 仕事を離れたら

現在、親元を離れ、基地内で生活をしています。しかし、職務を離れたら、しっかり休息をとることとストレス解消も兼ねての体力練成に努めています。また手芸が趣味なので、休日はアクセサリーを作ったり、映画鑑賞などをしてゆっくり過ごすことが多いです。たまにドライブに出かけて一日中運転していることもあります。

### 短期大学に学ぶ後輩への一言

一日一日を、時々思い出しては懐かしむ程度に大切にしてください。また学生は社会人よりも自由な時間が多いので、今のうちに色々なところに出かけたり、触れたりすることを勧めたいです。自分の将来の目標になったり、息抜きや楽しみになったりと、思いもよらない発見があります。これから大変な時期を向かえる人も多いと思いますが、何となく過ごした日々であれ、新たに発見したことであれ、それらは将来の自分への投資になります。自分のペースで頑張ってください。



恩師 江見和明先生から....

加藤さんは、飾り気のない素朴な女性という印象でした。基礎的な学力はしっかりと持っており、自分で物事を考える力があるな、と思っていました。授業の取り組み姿勢もとても熱心でした。

当時は、予めコースを決めて入学しました。ロジスティクビジネスコースは、男性が多いコースでしたので、選択には勇気が必要だったのではないかと思います。

## 大阪成蹊短期大学 観光学科 卒業



現職：フリーアナウンサー、専門学校講師

谷口 智子 さん

### 出演番組等

#### [テレビ]

- ・四国放送「朝6・30」キャスター
- ・JNNニュースバード キャスター
- ・TBSラジオ ニュースアナウンサー
- ・テレビ埼玉 契約アナウンサー
- ・南日本放送 契約アナウンサー

#### [ラジオ]

- ・MBCニュースアナウンサー
- ・谷口智子の「週末の一冊」 パーソナリティ

#### [CM]

- ・アリコ「やさしくそなえる医療保険」プレゼンター

#### [その他]

- ・司会（式典、記者会見、セミナー、パーティー、展示会、イベントMC）等多数

## 迷ったときには踏み出してみる！

### 併設高校から短期大学へ～ミュージカルへの想い～

私が通っていた大阪成蹊女子高校は、「徳があり、人に慕われ、信頼される人を育てること」を教育の目標とした、学校行事や部活などがとても盛んな高校でした。伝統ともいえる文化祭でミュージカルを経験したことは、その後の進路を決めるうえでも大きなステップとなり、併設の大成蹊短期大学に進学し、夢をつなぎたいと思いました。当時、短期大学には、全国でも珍しい観光学科があり、将来、空港やホテルなどのサービス業に就きたいと思っていましたので、迷うことはありませんでした。

短期大学に進学するとすぐにミュージカル同好会を結成し、「学園祭の舞台に立とう！」とクラスメイトの賛同を得て、大きな舞台でミュージカルを演じることができました。このことが大きな自信となり、自分のセールスポイントにもなりました。アッという間の凝縮した2年間、就職にむけての準備も自然とできたように思います。

## 大阪成蹊短期大学

開設年度：昭和26年度

所在地：大阪府大阪市

建学の精神：桃李不言下自成蹊、桃李もの言わざれども下おのずから蹊を成す

設置学科：観光学科、幼児教育学科、栄養学科、調理・製菓学科、生活デザイン学科、  
(2020年度) 経営会計学科、グローバルコミュニケーション学科

### 将来の自分を導いてくれた観光学科

観光学科には、旅行業界やホテル業、航空関係の仕事に興味のある人が多く、将来への目標を持った人が多かったように思います。授業にあたる先生方は、それぞれの業界で経験を重ねた個性的なプロの方たちが多く、授業内容は非常に興味深く、ユニークで笑いが起きることもたびたびあり、とても楽しく学ぶことができました。私自身、サービス業に憧れていますので、将来の自分を身近にイメージすることができました。

卒業後、関西空港でグランドスタッフの仕事に就きましたが、そこで新人研修のインストラクターを任せられたことがきっかけで、アナウンス業務について深く学びたいと思うようになりました。仕事を続ける傍ら、アナウンスの専門学校に通い、発音、発声の仕方について基礎から学び、アナウンサーとしてのスキルも磨いていきました。と同時に、将来、司会などの話す仕事にチャレンジしてみたいと考えるようになりました。

空港での仕事を5年ほど経験したのち、思い切って転職を決意しました。

### アナウンサーとしてのデビューは四国放送

通っていた専門学校に自由応募によるオーディションの案内があり、四国放送に応募しました。書類選考ののち、徳島の放送局にて原稿読みと面接後、映像を見て話すカメラテストを行い、結果、念願のアナウンサーとして、「朝6・30」という番組のキャスターを務めることになりました。

正直、アナウンサーの仕事についてよくわからずにこの世界に飛び込んでしまったため、最初のころは「気がついたら本番が終わっていた」という状態で、後からもっとこうすれば良かったという課題が多く見つかり、アナウンサーの責任の重さを実感したと同時にプロとしての自覚を持つよう厳しく仕事を教え込まれました。仕事ができないと肩身が狭いような雰囲気がありました。自分がどのような姿勢で仕事に取り組むかを示していくば、厳しいと感じた職場も自分の意見が言いやすいような雰囲気に変わっていきました。働きやすい職場になるかどうかは、自分次第でもあると感じています。

アナウンサーの仕事をこなしていく上で、体調管理は何よりも大切なことです。早朝の番組を担当して、冬は朝起きが非常につらかったことを憶えています。



四国放送「朝6・30」キャスター

## ● アナウンサーの醍醐味

アナウンサーは緊張の連続、だからこそ味わえる達成感！ 生放送の場合、やり直しがきかないため、本番に向けてスタッフ、出演者ともに膨大な準備をします。番組を作ったスタッフの想いを心に刻み、情報を正確に伝え、視聴者の皆さんと真摯に向かい合い伝えるアナウンサーの責任は、今の流行りでいう“半端ない”ものです。

ある年、台風がやってきたとき、ドタバタしながら番組の進行をしたことがありました。刻々と状況が変わり、新たな情報が次々と飛び込んでくる中、スタッフをはじめみんなで協力して乗り切ったときの達成感は今でも忘れることができません。このような緊張感と達成感がアナウンサーとしての醍醐味だと思っています。

時に予期せぬことが起こりますが、常にテレビの向こう側にいる人に対して、会場の一人一人に話しかけるようなイメージで話すよう心がけています。また、司会をする際、番組の内容によって話すトーンや言葉の選び方などに注意し、相手の求めるイメージに近い進行をしたいと思っています。のために、言葉を伝える職業として常に発声などの基礎の訓練や日々の情報収集などの努力を怠らないこと、取材先では、初対面の人と接する機会が多いことから、相手に心を開いてもらえるよう笑顔で接しながら、しっかりとコミュニケーションを取ることが大切だと思っています。

## ● 臨機応変は大切だけど、うっかりは許されない！

限られた時間を最大限に活かして番組の魅力を伝えていくことは大切なことです、ある時、選挙番組で司会を担当した際に、スタッフから伝えられた番組終了時間が2分ほど違っていたことがありました。2分という時間は短いようですが、秒ぎざみの仕事をしている私たちにとってはとても長い時間です。しかも生放送!! 一旦コメントを締め括ってしまったのですが、臨機応変、伸びた2分間を何事もなかったようにつなぐことができ、無事に番組を終えることができました。その時は心の中でガツツポーズをしました。

反面、経験を重ねると緊張感が薄れ、慎重さが欠けてしまうことの恐ろしさを身をもって学んだ出来事がありました。地方局（鹿児島勤務時代）に勤務していたころ、1日の中でラジオのニュース、ナレーション、テレビのニュース、番組収録等々、いくつかの仕事を抱えていました。内容は様々で日替わりです。

ある日、テレビの仕事で3分ほどの天気予報を伝える番組を担当していました。ところがそのことをすっかり忘れてしまい、天気予報の原稿を読まないまま、結局、BGMと映像だけが流れて終わってしまったのです。これは放送事故という重大なミスです。当時、アナウンサー経験は5年ほどでしたが、新人でもしないようなミスをしてしまい、上司やスポンサー企業に多大なご迷惑をかけてしまいました。その大失敗



テレビ埼玉 スポーツ情報番組

を教訓に簡単に思える仕事でも、自分に任された仕事は準備を怠らないよう肝に銘じて取り組んでいます。以前、「人に慣れても仕事に慣れるな」と上司に言わされたことがあり、この言葉は今でも忘れることができません。

### ● 現在はフリーアナウンサーとして

四国放送では契約社員で1年ごとの更新でした。そのため、次のステップアップについては常に考えていました。東京のプロダクションがキャスターを募集しており、そちらで採用が決まったため、2年で退職することになりました。東京のアナウンサープロダクションに所属し、埼玉、鹿児島の地方局アナウンサー、東京でフリーアナウンサーとして、研鑽を積んできました。毎回違う仕事内容ということが多いため、そのたびに違うスタッフと仕事をすることもあり、新鮮な気持ちで仕事に臨むことができます。挨拶やコミュニケーションを大切に、気配りを欠かさないようにしています。様々な現場で仕事を経験できるため、臨機応変にも磨きがかかり、自分自身を大きく成長させてくれたと思います。

### ● アナウンサーとしての経験を活かして

2019年4月から、東京にある専門学校でサービス業への就職を目指す留学生や日本人学生を対象として、ビジネスマナーを教えています。特に留学生には、ビジネス日本語やビジネスマナーを、日本人学生にはサービス接遇検定を行っています。自分の学生時代のことを思い出しながら、夢を叶えるサポートができればと思っています。

### ● 短期大学で学ぶ後輩へ「チャレンジしてみる方が楽しい！」

学生時代は、なんでも夢中になってやらないと気が済みませんでした。これまでを振り返ると、ちょっと無理かな？と思うくらいの仕事に挑戦するほうが、刺激があって楽しい！と思います。迷ったときには踏み出してみる。そんな気持ちで挑戦してください。2年という短い期間だからこそ、時間を大切にし、目標に向かって努力する。短期大学は大学に比べ先生方との距離も近く、おしゃべり感覚で色々な相談ができるというメリットを最大限に活かして、夢を叶えるために頑張ってほしいと思います。



恩師 岡田保造先生から....

谷口さんといえば舞台のことが頭に浮かぶ。文化祭でミュージカルの大作（一回生で『サウンド・オブ・ミュージック』、二回生で『レ・ミゼラブル』）を自分なりに巧みにまとめ、サンケイホールの桧舞台を見事に飾った。

また、私が顧問であった歴史研究部の合宿にも参加するなど、いろんなものに興味を示し、すべてに努力家だった。

その静かな笑顔と細やかな心遣いで誰にでも好かれる人物だ。



勤務先：株式会社 K G 情報  
職 種：システムエンジニア

有田 直矢 さん

### 勤務先紹介

株式会社 K G 情報は、1980年に創業し、経営理念に「人々の平和・幸福・安らぎ」「企業の存続・発展・永続」「三方善の実現」を掲げ、刻一刻と変わるニーズにあわせ、情報を加工・発信し続ける会社です。

地域ごとの仕事や住宅、レジャーなど生活に関わるさまざまな情報を集め、価値ある商品・サービスに変えて届けることで、人々の暮らしや人生を豊かにするお手伝いをしています。

2020年6月20日現在の従業員数は、241名（アルバイト・パート含む）。

## システムエンジニアの仕事は 世の中の生活をさらに豊かにすること

### 将来にむけての進路選択

高校卒業後の進路を考える際、将来に役立つ資格を取得できる大学への進学を希望していました。その頃、教育関係や情報関係に興味を持っていましたので、教員免許状や情報処理に関する資格に興味がありました。また、早く社会に出て働きたいと思っていましたので、四年制ではなく、二年制の大学への進学を視野に地元山口県内で学べる学校を探しました。そこで WEB や事務処理システム開発など幅広い分野で活躍するスペシャリストの育成を目指している山口短期大学と出会い、当時、教員免許状も取得可能であった情報メディア学科に進学を決めました。

### 短期大学での2年間

短期大学に入学し、取得できる資格は全て取得しようと、毎日朝の 8 時から夕方 6 時までみっちりと講義を受けました。2 年間という限られた期間に、将来のために今何を学ぶべきなのか、その

## 山口短期大学

開設年度：昭和42年度  
所在地：山口県防府市  
建学の精神：至心  
設置学科：情報メディア学科、児童教育学科 初等教育学専攻、幼児教育学専攻  
(2020年度)

ためにはどの講義を受講するのがよいのかを意識することで、時間の大切さを体感しながら学ぶことができました。また、中学校教員免許状の取得を目指したため、必要な単位数が多く、とても大変でしたが、ビジネス実務士、上級情報処理士、ウェブデザイン実務士の資格も取得することができ、多種多様な分野の基礎知識を一通り学べ、就職したときにはその知識がとても役立ちました。

短期大学では勉強に追われる傍ら、バイトや友人との交流も大切にしていたので、朝から夜まで過密なスケジュールをこなしていたと記憶しています。そのおかげで毎日充実した学生生活を送ることができました。

### 職業選択

2年生の6月に、教員免許状取得のため、中学校に教育実習に行き、理科の授業を担当しました。その時、短期大学で学んだ情報処理の技術を活かし、生徒に分かりやすく興味を持ってもらえるよう、3DCGを用いた授業にトライしました。ところが指導教員からそのような授業を行う必要はないと評価されてしまい、教育現場で自分のスキルを活かすのは難しいことだと判断しました。

その一方で情報処理系はちょうど一般家庭でもネットワークに接続できる環境が整い始めていたため、今後はネットワークを用いたシステムが必要不可欠になると判断し、情報処理に関する知識が活かせる企業への就職を意識しました。

### 進むべき道にむかって

教育実習を経験し、教職への道を断念したのち、7月に入ってから就職活動を開始したため、急いで何社かを選んで応募しました。幸い2社目の会社から内定を得ました。その会社は金融業、製造業を中心に多種多様なシステムを構築している会社で、その会社の教育担当者の人から、この仕事を続けるなら、経済産業省が情報処理技術者としての知識・技能が一定以上の水準であることを認定している情報処理技術者試験を受けておくべきだとのアドバイスをしてくれたので、翌年の春に実施される試験にむけて取り組み、無事に卒業年の5月に合格しました。

### システムエンジニアとして

短期大学卒業後に入社した会社は、リーマンショックの影響により1年3ヶ月で退職を余儀なくされました。翌月には、企業の人材・採用・宣伝の業務に対応するために多様なサービスを展開している会社に就職し、10年5ヶ月勤務しました。そして、昨年の12月から、その関連会社でもある株式会社K G情報に移って仕事をしています。

就職したての頃は、短期大学で学んだ基礎知識が新しい技術や知識を学習する際にとても役立ちました。この基礎知識のおかげで、今後もシステムエンジニアとして活躍できるという自信に繋がり、なんとか仕事をこなしていました。しかし、だんだん任される仕事が増えて、難易度も上がり、専門的な知識がさらに必要になってきたため、働きながら勉強をしました。この時期が一番辛かったです。学生時代にさらに自主勉強で補っておけば良かったと感じました。知識不足で全然対応できなかったことが悔しかったので、それ以降は積極的に新しい技術や知識を自主学習するよう努力して、今では仕事をしていく上で大きな困難にぶつかる様なことは少なくなりました。

また、新人のころ、「システムエンジニアの仕事はシステムを構築することではなく、プロジェクトを成功させることであり、要件定義や機能見積もりを正確にできるようになって、初めて一人前のシステムエンジニアになれる」と言われたことがあります。それまでは要求されたシステムを構築することしか考えていなかったので、上司の話を聞いて、お客様の課題や目的等を意識して構築できるようになりました。

現在、WEBサービスのシステム開発と子会社の社内インフラを構築・運用に従事しながら、エンジニアチームのリーダであるティックリードとして、開発メンバーのスキルアップや技術面での相談等にも対応しています。その開発や改修において、成果に貢献できた時が一番嬉しいです。特にWEBサービスの成果はデータとして現れますので、ある意味ゲーム感覚で業務に取り組み、重要業績評価指標を表すKPI達成を目指しています。

職場は、雰囲気が良くて仕事しやすい環境です。KPI達成に向けて、部下から上司に対しても進言しやすく、また上司もすぐに対応してくれるので、とてもやりがいがあります。同僚とはお互いに忌憚なく意見が言い合える関係で、技術や知識を高めることができます。



## システムエンジニアの魅力

技術の進歩により、どのような業種、業務でも必ずシステムを利用するようになっています。例えば、小売店ではPOSシステムで商品管理し、医療機関では患者のカルテ情報等をシステムで管理しており、仕事や生活の利便性向上にシステムは必要不可欠なものになっています。さらにネットワークを介することで広い範囲で貢献することもできます。しかし、それらのシステムを構築するためにはシステムエンジニアの力が必要であり、今後もその重要性は高まると思っています。

システムエンジニアの仕事はシステムを作ることではなく、世の中の生活をさらに豊かにすることができる唯一の仕事だと考えます。

## 将来にむけて

将来、機械学習言語を用いたWEBサービスを構築したいと思っています。基本的にシステム開発はクライアントからの要求に沿って構築しますが、運用すると新しい要求内容ができ、常に改修が求められます。特にWEBサービスはユーザからの要求の変化が多いので、機械学習を用いてユーザ行動を学習させ、日々変化する要求に対応できるシステムを構築できれば、ユーザの要求にいち早く対応でき、かつ改修コストを減らせるのではないかと考えています。

日本でも機械学習を用いたサービスが増えていますので、近い将来には実現したいです。



## 後輩へのアドバイス

2年間はアッという間です。興味がある講義はどんどん受講し、もっと深く学びたいことがあれば積極的に学習しましょう。友人との交流や適度に遊ぶことも重要です。学習と遊びを両立して学生生活を楽しんでください。

プログラミングは難しそうと考えている学生は多いと思います。しかし、プログラミングに必要な物はパソコンのみです。逆に言うとパソコンだけでモノづくりができる仕事とも言えます。プログラミングは手軽に始められるので、興味がある方はまず自分の生活に役立つシステムを作ってみてください。それが楽しいと感じた時に将来の選択肢にシステムエンジニアを検討してもらえると嬉しいです。



恩師 柴田道信先生から....

有田さんは、明るく朗らかな性格で、誰とでも仲良くできる学生でした。学園祭では仲間とともにゲームコーナーを企画・運営するなど、学校行事にも積極的に関わっていました。卒業研究では他の卒業研究メンバーと協力して、実際にシューティングゲームの開発に取り組みました。開発段階において計画通りに進まないことも多々ありましたが、他のメンバーとともに解決策を探り、最終的にゲームを完成させています。みんなと協力し、目標に向かって粘り強く取り組む姿が特に印象に残っています。



勤務先：株式会社ルネ  
職種：企画職（パターンナー）

山道 ちなみさん

### 勤務先紹介

株式会社ルネは、ルネブランド製品（高級婦人服・小物）の企画、製造および販売（小売・卸売・ECサイト）を行っている総合アパレルメーカーです。

1979年に会社が設立されてから今日に至るまで、最高の商品とおもてなしをお届けしています。普遍的なエレガンスを追求し、女性の美しさを最大限に引き出すデザイン、心までも豊かにする上質で洗練された商品を提案し、選び抜いた最高の素材を最大限に引き出す商品の企画、デザイン、パターン製作、縫製を全て自社内のアトリエにて行っています。

## パターンナーとして 肩の力は抜いても、手は抜かない

### ファッションに目覚めたきっかけ

ファッションに興味を持ち始めたのは、小学生の頃でした。当時、ファッションデザイナーを目指す女子高校生の青春を描いた『ご近所物語』という少女漫画がとても流行っていて、主人公が作りだす洋服の華やかさがとても魅力的でした。自分のブランドの店を持つために日々努力し念願が叶うという、いわゆるサクセスストーリーなので、幼い私は「いつか自分もこの主人公のように輝きたい！」と憧れを抱くようになりました。

### 将来にむけての学びの選択

その憧れは褪せることなく高校進学を迎える少しでもファッションに関する勉強のできる環境下にいたいと思い、家政科のある高校を選びました。その高校では裁縫を学び、そこで初めて自分で裁断した服を完成させることができました。この頃から頻繁に服を縫い、それを着て出かけること

## 香蘭女子短期大学

開設年度：昭和33年度

所在地：福岡県福岡市

建学の精神：創意・自立・敬愛

設置学科：ファッション総合学科、食物栄養学科、保育学科、ライフプランニング総合学科  
(2020年度)

が楽しみとなりました。

そして高校卒業後の進路を決める際、将来、ファッション関係の仕事がしたいという明確な夢が育っていましたので、専門的な知識が学べる進学先を探すことになりました。4年制大学も選択肢の1つとして考えましたが、ファッションの世界に進むのであれば、少しでも早く社会に出て経験を積んだ方がいいのではないかと思い、短期大学を念頭に置いて選び始めました。そんな時、同じ高校の先輩が香蘭女子短期大学に多く進学していることを知ったのです。

香蘭女子短期大学のファッション総合学科は、それまでの被服学科から新たに名称を変更し、カリキュラムをみると自分の進みたい道や学びたい分野に合わせて授業を細かく組み合わせて選択できるようになっていました。当時は、ファッション業界で技術職として働きたいとは考えていたものの、具体的な職種については決めかねていましたので、ファッションについて総合的に学ぶことができるファッション総合学科にとても魅力を感じました。

### パタンナーを目指して

香蘭女子短期大学に進学して、ファッションの基礎についてはもちろんのこと、人の体のつくりやファッションの歴史、素材の種類やその扱い方など、ファッションに関する様々な分野について幅広く学ぶことができました。なかでも、縫製やパターン（洋服の型紙）作成などの技術を身に着ける授業を多く受講できたことは、現在の仕事に活かされています。

入学した当初は、パターンを製図することが苦手だったこともあり、自らの手で製品を作り上げたいという思いから縫製職を志望していました。しかし、授業でアパレルCADというパソコンソフトを使ってパターンを作成する方法を学んでからは、パターンに対する意識が変わりました。CADは作りたいデザインのパターンをパソコン上で自由に描き、自分の独自性や創造性を活かして手軽に洋服を作ることができます。それまでの手作業での製図に比べ修正もとても簡単で、その魅力にはまってしまいました。このCADをマスターしてからは、夢中でパターンを引くようになりました。次第に縫製職からパタンナー職を目指すようになりました。

### 博多織との出会い～卒業制作のファッションショー～

2年生になって、1年次にドレーピングの授業を担当されていた教授のゼミを選びました。その教授のゼミのテーマが「博多織」であったため、博多織について学びたいというよりは、その教授についていきたいという思いが強く、博多織について何の知識もないまま、ゼロからのスタートでした。

伝統工芸品でもある博多織は、福岡市近郊で特産とされる絹織物で、生地に厚みや張りがあるため、反物ではなく帯として使われることに適していると言われています。生地の特性、取扱い方が

普段の授業で使用しているものとは異なり、縫製がとても難しかったです。何度も縫ってはほどきを繰り返した記憶があります。

卒業制作では、その博多織の洋服地を使い、働く女性のためにジャケットとスカートやワンピースのシンプルなスーツスタイルを基本に、一手間加えることでパーティー着へと変化させることのできる一着を制作することになり、私はロングオーバースカートを提案しました。当時は、制作者本人がモデルとなり卒業ショーを行うことが通常でしたが、私たちのゼミではデザインから洋服の制作、そしてショーにいたるまで、国際ソロプロチミストの方々にモデルとなっていました。デザインを考えて、モデルに合わせたパターンを引き、自らの手で縫い上げたその1着はまさしく短期大学2年間で学んだことの集大成となりました。ショーを終えた時、やりきったという満足感はたまらなかったです。

## 一目惚れした洋服を作っている会社に入りたい！

就職活動に向けて、自分がどういうタイプの洋服を作りたいのかを知るために、様々なブランド店に足を運ぶなどして研究を重ねました。そんな時に、福岡のお店のショーウィンドウに飾られた洋服を偶然見つけ、「こういう服を着たい！ 作りたい！」と気持ちが高ぶった一着がありました。まさに一目惚れでした。その制作・販売会社について調べてみたところ、「ルネ」という会社で、香蘭女子短期大学の卒業生も多く就職していることがわかりました。幸運にもパタンナーの求人を行っていましたので、試験を受けることにしました。

採用試験では、一般教養の筆記試験や集団面接、パターン実技試験がありました。特に実技試験の平面パターンは苦手意識が強く、学校の授業だけでは練習量が足りないので、空き時間や寮に帰ってからの時間を使って、パターンを何度も何度も引き、線の正確さやスピードを重視して練習しました。内定の通知を受け取った時には、大好きなブランドで働く喜びで胸がいっぱいになったことを憶えています。

## 念願のパタンナーとして～お客様に喜ばれる洋服を形にしたい～

現在はパタンナーとして、デザイナーが作成したデザイン画をもとに、アパレルCADを使用し洋服のパターンを作成しています。1年間に4回開催される新作展示会に向けての商品や追加企画商品など合わせると1人で月20～30型ほど手掛けています。

この仕事には、正解がありません。今日正解だったことが、明日には不正解になることも多いにある世界です。流行もあります。トレンドの中にどのようにして自社ブランドらしさを加えるか、デザイナーとも話し合いを重ねながら常に勉強の毎日です。正解がない、それが苦労する点でもあります、大きな



やりがいもあります。

そんな日々の努力が報われるのは、街中で自分が携わった服を着ている人を見かけた時です。自然と笑みがこぼれ、走り寄って行って直接「着ていただきありがとうございます！」とお礼を言いたくなるぐらい嬉しくなります。また、商品が雑誌に掲載されたり、ヒット商品となって増産に結び付いたりすることもやりがいを感じることの1つです。

## 入社11年目を迎えて

今年で入社11年目を迎えました。入社4年目を迎えた頃、一日の大半を仕事に費やし、寝る間も惜しんで働いているのに、自分が携わる商品になかなかOKが出ないことが続き、この仕事が自分には合っていないのではないかと悩むようになりました。そこで思い切って一度休みを取り、自分と向き合うことにしました。幸いにも調子を取り戻すことが出来ましたが、この辛い時期を経験したからこそ、力の入れ方や抜き方を覚えることができました。部下を持つようになった今は、昔の自分のように無理をしている人はいないかと気に掛け、コミュニケーションを密にし、特に新入社員、若手社員へのバックアップ、フォローは大切にしています。

そして、10年を一区切りとして考えると、今の私は1年目の新人です。これまで身に着けた知識や技術に甘んじることなく、新たな気持ちで仕事に取り組んでいく一年となります。パタンナーにとってデザイナーの意図、お客様の求めるものを深く理解し、それをしっかりと形にすることのできるパターン力が商品の良し悪しを決める重要なカギです。今後も現状に満足することなく、そして一つの考えに固執することなく、常に新しい感覚を大事にして仕事に取り組み、いずれはフリーでも働ける確かな腕を持ち、あなたに任せたいと選ばれるパタンナーになること、そして自分の携わった商品を一人でも多くのお客様に選んでいただけるよう、これからも励んでいきたいと思っています。



恩師 坂元美貴子先生から....

山道さんは、私のゼミ生でした。いつも笑顔で明るく素直な学生でした。

卒業制作で博多織を使ったフォーマルドレスを制作した際、博多織は洋服には向かない生地であるにもかかわらず、持ち前のセンスと技術力で素晴らしい作品を制作しました。最後まで妥協せず、リボンの色を白にするか黒にするかで、悩んでいたことが懐かしく思い出されます。こだわりを持って取り組む精神が、今のパタンナーとしての仕事に活かされていると思います。